わが町わが村

ふるさと自慢

緑と干柿の里

――下益城郡豊野村

豊野村は、県のほぼ中央部に位置した盆地にあります。緑川水系の浜戸川と小熊川が流れ、その流域に水田が開けています。

近頃は、圃場整備により施設園芸が盛んになりました。特産品は、干柿とメロンです。

史跡としては、奈良時代に建立された浄水寺跡にある四基の石碑が有名です。延暦七年（七九〇年）につくられた九州最古のものです。また、村の中央台地には、天正九年（一五八一年）、御船城主が討ち死にしたという相良堂があります。

村民の憩いの場は、誉ケ丘公園。大きな三つの池が、桜、ツツジなどの緑で覆われ、あちらこちらに小鳥の巣箱が設けられています。随所にある「あづまや」は、公園を散策する若者たちで賑わい、さながら緑のオアシスとなっています。

村内に５つある石橋の１つ、下鶴橋

昨年、この近くに、県立少年自然の家もオープンし、県下の少年たちが自然を求めて集まるようになりました。

みなさんも、一度訪れてみませんか。お問い合わせは、豊野村役場へ。

☎ ○九六四四五―二一二一

この新聞を制作した
下益城郡豊野村立豊野小学校
六年生のみなさん。

自然がいっぱい豊野村

豊野村では、10月の末からあけて2月までしぶ柿をむいてほし柿作りをする。つつむのは6に1はこ12個づついれてできあがったら農協の協同出荷したり市場へもっていったりしています

薩摩渡し

薩摩渡しは一八二九（文政十二）年豊野村糸石に完成しました。小学校から15分の所できょりは一・五キロメートルです。

この橋は、石でできていて大雨（洪水）などがあってもながされることもなく百五十年間すぎているのに、がんじょうな橋です。

昔は豊野村の国道の一つとしてこの橋をたよりにおおくの村人の人たちが通ったとおもわれます。

橋の下の川は、はまどり川とつながりとてもきれいな水です。

アーチ形のこんなきれいな形を石でつくるなんてどんな勉強をしたのか、すばらしいこの橋は今、豊野村の有名な橋としてしたしまれています。

とよの緑の少年団

緑の少年団は昭和五十七年に結成されました。団員三十七名で毎月一回集っています。植樹祭キャンプでは細川知事と木を植え十二月には空き缶ひろい。一月には巣箱を作って、少年の家周辺にとりつけた。

学校の紹介

私達の豊野小学校の生徒は、四百七十九人です。先生の数は、二十人です。一組で約40人ぐらいです。豊野小学校では野球部、ハンドボール部、バスケット部、サッカー部の四つの部活動があります。それでは、部活動を紹介します。

⚾もう六年生はしていなく、五年生中心でやっています。部員は27人です。

（ハンドボール）私達の先ぱいは、よい成績を残してくれて、私達もよい成績を残しました。

（バスケット）部員は38人で、六年は宇城で3位でした。

⚽部員は27人です。練習がんばっています。

豊野少年自然の家

自然の家は小学三年生から中学三年生まで利用できます。一度きて下さい。

とまってすることは‥ハイキング・自然観察・工作・てんたいかんそく・キャンドルのつどい・キャンプファイヤー‥オリエンテーリングなどあります。その中でも自然観察など自分でしらない自然がとてもわかりためになりわかりました。ゲームはだましあってとてもおもしろかったです

浄水寺

浄水寺は今から1200年ほど以前の奈良時代末期（790年頃）僧奘善によって建立されました。宇土に4ヶ所上益城3ヶ所、八代に1ヶ所 そして豊野と合わせて、計388町歩の荘園をもっていた大きな寺社です。お経の本61.406巻を有する肥後文化の中心であったといわれています。お堂の中には こわい顔をした木製の仁王様が5体あって、真中にお釈迦様の像がかざってあります。（江戸時代のものと思われます）奉納 天保5年甲午3月吉日 富村仁左エ門 これは、お堂の前の石で作られた直方体の水ためみたいなものに刻まれていた文字である。とにかく古いものらしく、雨だれの跡が残っている。大きな石がいくつも残っており、トランプのみつばの模様が、3～4個ぐらい浮きぼりされている。柱の台であったようだ。浄水寺独得の紋様がある。かわらのもとになる土も豊野産で、いまも数箇所あったことがわかった。

豊野の民話（森の木口の天神様）

★むかし、むかし、豊野の糸石の森の木と言う所に、一本の大きな木がたっておった。大きいのなんので朝日が上がると、木の長いかげが有明海にうつり、夕日がさすと、そのかげが日向の海までのびるほどなんじゃ。だから村という村もう田畑も穀るとこではない。それで、その木を切ることにした。その日は、そこまでおえて、明る朝行って見ると、幹の切り口は、もとどおりきれいにふさがっておるんじゃ。そんな日が何日も続くもんでそうじょう屋は、げなんのき助を一晩見はりにやった。すると白い着物をきた老人がくずを集めて木を回したそうな。それに、びっくりしたき助は声をたててしまい、この事を人に言ったらくるい死にすると言ったがそれを、そうじょう屋の人に言ったそうな。そして、二十日後、木はついに切りたおされたんじゃ。やがてそこには、ほこらが立ち、天神様として祭られた。こうして、村には、平和がおとずれたが、かわいそうにき助は、死んでしもうたそうな。